



HERO

—わがまちの消防団—



副団長として、各団の活動を
支えています

上対馬地区消防団
今村 純一 副団長



地域に少しでも恩返し
したいと活動しています

美津島第6分団
酒井 正幸 副分団長



消防団と地域の人たちの
懸け橋になりたいです

豊玉第7分団
波田 あやの 団員



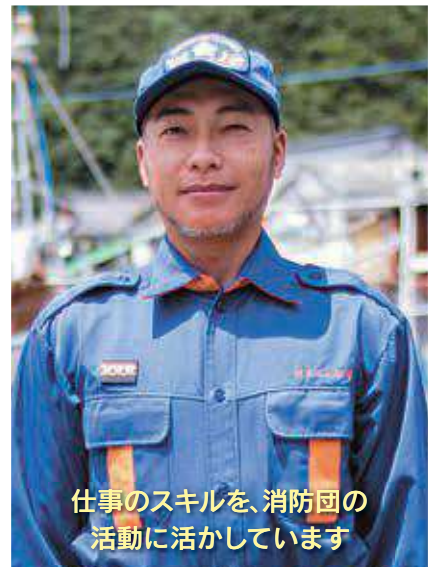
地域の役に立てることが、
活動のモチベーションです

巖原第3分団
戸山 卓弥 火先班長



消防団は子どもの頃から
身近な存在でした

巖原第2分団
田中 節竜 機械班長



仕事のスキルを、消防団の
活動に活かしています

峰第6分団
鍵本 尚弥 機械班長

HEROの名は消防団

消防団員は、普段は本来の職に従事しながらも、火災や大雨などの災害時に出動し、私たちを守ってくれる地域のヒーローです。消防団員がどのような活動をしているのか、身近だけど意外と知らない対馬のヒーローを紹介します。

消防団のことを 教えるヨ!



消防団の歴史は? 昔からあるの?

地域の人たちが消火活動を行う組織は、江戸時代の町火消しに始まると言われていて、対馬では、厳原の市街地で大規模な火災が数回発生していて、今から360年ほど前には、火消番所と呼ばれる詰所が置かれた記録が残されています。

戦後、昭和22年には、全国の市町村が消防組織を設置する法律ができ、現在の消防団が誕生しました。対馬では、昭和49年に旧6町が共同で消防本部を設置するまで、火災の消火や災害への対処などは消防団が先頭に立って行っていました。かつて年間50件ほど発生していた火災は、現在、半数ほどに減少していますが、大雨などの自然災害が増加傾向にあり地域の頼れる存在として、消防団の活躍が光っています。



厳原にあった
物見やぐら



江戸時代に使われて
いた手押しポンプ



消防団?お父さんたちの? どんな活動?

火災、不明者の捜索、人命救助、大雨や地震などの災害の際、地域住民の生命や財産を守るために活動する組織で、日本中すべての自治体に設置されています。非常勤の公務員という立場で、地域の住民がそれぞれの消防団に所属し、仕事や家庭と両立しながら地域の安全安心を守るために活動しています。



山火事で消火活動を行う消防団員

活動している人はたくさんいるの?

現在、対馬市消防団は、52の分団に1,498人(8月1日現在)の団員が所属しています。各分団には、分団長以下、様々な役職の団員で構成され、地域のピンチの時に駆けつけています。消防団員は、非常勤特別職の地方公務員という身分で、報酬や出勤手当、活動中のけがなどの補償などがあります。



大量の雨水をポンプ車で排水

消防団と協力して地域を守ります

常勤で火災や救急などの業務に当たっている私たち消防職員ですが、私たちだけで様々な災害に対応することは難しく、消防団の皆さんと協力して業務に当たっています。山林火災などの大きな火災の際には、消火活動はもちろん、消火する水利の確保や周辺の警戒などを行っていただいていますし、風水害では、地域にある危険箇所の警戒や、住民の避難誘導、避難所へのケアなど、消防団の豊富な経験と地域に住む人ならではの視点で、私たちの活動を助けていただいています。組織としては違いがありますが、同じ対馬市民を守る存在として、一つのチームとなり協力していきたいと思えます。



消防本部 総務課 阿比留 幸輝さん



戸山班長が
所属する

厳原第3分団の活動におじゃましました!



団員の敬礼を受ける分団長

消防団の活動は、火災や風水害時の出動だけではありません。日頃から点検や訓練を行い、いざという時に早急に対応できる準備をしています。そこで、毎月1日に機材の点検を行っている厳原第3分団におじゃましました。



仕事を終えた午後7時に団員が集まります。世代を超えて集まる消防団では、これまで出会うことのなかった人との繋がりもでき、お互いの近況報告など和気あいあいと声を掛け合います。



水圧を調整し、ポンプの状況を大声で伝える

しかし、訓練が始まると空気は一変、緊張感に包まれます。訓練では詰所近くの防火水槽からポンプ車2台を連結して水を汲み上げ、放水を行います。



火災をイメージしながらの筒先の操作

ポンプ車から勢いよく送られる水は、数人で支えないとコントロールできません。コミュニケーションを取りながら、実際の出動に備え訓練に励んでいました。



異常なし

いざという時に、自分や大切な人を守る力を

対馬市の消防団は、地域が多くそれぞれが離れているので、他の自治体よりも分団の数が多く存在しています。しかし、以前よりも消防団員は減っているため、体勢を維持することなど、多くの課題を抱えています。現在、隣接する地区の分団からお互いに応援できる体勢を整えています。いざ災害が発生した時には応援に時間がかかるなどの問題があるため、多くの人のために消防団に入ってください、皆さんの住む地域を災害から守っていただきたいのです。

消防団では消火や人命救助の訓練を行ったり、地域の危険な箇所を事前に確認するなど、日頃からの備えを行っています。それは、自らの防災意識やスキルを高めることになり、いざという時、自分の身や家族など、大切な人を守るができる力になりうるのではないのでしょうか。



対馬市消防団 安田 壽和団長

故郷でがんばっていきたいという思いを形にするために、消防団に入りました！
消防団は、地域に貢献できる近道です！

増える女性消防団員

消防団は、原則18歳以上であれば誰でも入団することができます。対馬市消防団員も、年齢や職業など様々です。中でも現在増え始めたのが女性消防団員。11人の女性団員が活躍しています。豊玉第7分団に所属する波田あやのさんもその一人です。

消防団員になったきっかけは？

高校まで対馬で過ごし、島外で介護の仕事に就いていました。2年前に地元に戻り、家業の畜産業の他、介護の仕事も続けています。以前からボランティアや地域貢献に興味があったのですが、どうして良いか分からず行動することができませんでした。1年ほど前に、消防団で活動してみないかと声を掛けていただいたのですが、消防団のイメージが消火活動しか思いつかなかった私は、私が入って役に立つのかという気持ちが大きかったです。それでも、少しでも地域のために役に立つのであればという気持ちで入団を決意、現在に至ります。

どのような活動をしているのですか？

訓練や、火災予防のための巡回など、他の男性団員に混じって行っています。まだまだ右も左も分からない状態ですが、積極的にコミュニケーションをとって学んでいきたいと思っています。昨年、豊玉町で避難所が開設された際には、避難所に配置され、避難された方への声かけや見守りを行いました。介護の仕事で経験していたことが役に立ってよかったです。知り合いなどに消防団に入っていることを話すと「活発な子だね」と言われます。

どのような消防団員になりたいですか？

消防団の活動を通して、誰かの役に立ちたいと思っています。その中で私ができたら良いなと考えているのが「身近な消防団員」です。地域の人たちと消防団の間をつなげることができるような団員になれるよう、日々活動をがんばっていきます。

消防団は「自分たちのまちは自分たちで守る」という使命感のもと、地域防災活動のリーダーとして活動しています。あなたが生まれたまち、暮らすまち、働くまちを守るため、消防団の活動に関わってみませんか？

あなたの子カラを消防団に

18歳以上で、その市町村に居住しているか、または勤務している人なら男性でも女性でも入団できます。消防団に入ると…

- 年間の報酬や出勤の手当
- 活動中の補償や共済
- 表彰や退職後の報酬

などがあります。



私たちは消防団を応援します

事業所が、そこに勤務する消防団員が活動しやすいように環境を整えたり、飲食店などが団員や家族に割引などのサービスを行ったりすることで、消防団の活動を応援することができます。

詳しくは、お問い合わせください。

- 消防団協力事業所表示制度
- 消防団応援の店

問い合わせ 対馬市消防本部総務課
☎0920(52)0119

